

シリーズ 激動中国

パリ協定後の気候変動政策

金 振

博士(法学)、(公財)地球環境戦略研究機関 気候変動とエネルギー領域
研究マネージャー/主任研究員



その35 地方政府の取り組み:内モンゴル自治区(前編)

内モンゴルの概要

中国の北部に立地する内モンゴル自治区(以下、内モンゴル)は、モンゴル共和国とロシアとの4200kmの国境を持つ少数民族自治区である。行政区画土地面積は118万km²、国全体の12.3%を占めるが、常駐人口は国全体の1.7%に相当する2403万人に止まり、ここ数年は人口減少が目立つ。

一方、内モンゴルのGDPは急速な成長を見せ、第十三次5カ年計画期間(2016年~2020年)における平均成長率は4.3%に達し、一人平均GDPは1万ドルを超えている。

中国政府は、内モンゴルの立地的な好条件と豊富な資源保有状況を勘案し、当該地域を国家エネルギーと戦略資源基地として指定した。

国家戦略資源基地としての内モンゴル

内モンゴルの白雲鄂博地域は、世界最大規模のレアアース鉱脈層を保有しており、中国全体レアアース資源の83%を占めている。2020年基準で、中国政府が承認した全国レアアース生産許容量は14万t/年であり、世界全体供給量の約6割を占めている。そのうち、白雲鄂博地域の生産量だけを勘案すれば、国家戦略資源基地として認定された内モンゴルの重要性は明白である。

レアアースは、電気自動車や風力発電機の製造に欠かせない重要な戦略的資源である。2MW級風量発電機の製造には平均0.5tのレアアースが必

要とされている。また、電気自動車1台に使われるレアアースは10kg以上とされている。2022年における新規風力発電設備導入量は3763万kW、電気自動車は726万台であることを考慮した場合、両分野におけるレアアースの消費量はおよそ2.6万tに相当する。内モンゴルが中国の再生可能エネルギーと電気自動車の戦略を支えているといっても過言ではない。

内モンゴル政府は、2030年まで、レアアース原料の加工・生産の現地化率を75%、レアアース関連素材・製品の国内シェアを53.6%まで引き上げることがめざしている。また、2030年まで、中国全土におけるレアアース永久磁石材料年間生産量が22.5万tまで拡大する指摘もある中、内モンゴル政府は、2030年まで、域内での年間材料生産量を10万tに引き上げる目標を掲げている。



●内モンゴルの基本データ

	内モンゴル					全国割合(%)	全国
	2016年	2017年	2018年	2019年	2020年	2020年	2020年
面積(万km ²)	118.3					12.3%	959.7
人口(万人)	2436	2433	2422	2415	2403	1.7%	141,178
GDP(億元)	13,789	14,898	16,140	17,212	17,258	1.7%	1,015,986

出典:国家統計局、内モンゴル統計局データに基づき整理